

われら二十歳

182名が大人の仲間入り

一月十五日の成人の日に、町では一八二人(男一〇一人・女八一人)が成人を迎え、晴れて大人の仲間入りをしました。

成人者を代表して平山雅英さんが感謝の言葉を述べ、意見発表では八人の方が将来への決意を力強く発表しました。

また、この日町体育館で開かれた成人式に参加した人に協力を頂き「はたちの意識調査」を行いました。

ご協力いただきました結果と、三名の方がたの二十歳の決意を紹介します。

(順不同)

成人としての 決意



石川 泰計

私は今「おしん」のふる里、山形県に住んでいます。

山形では、天然記念物として指定されています「日本カモシカ」も沢山いて、「サクランボ」や「洋梨」など、果物も豊富で

す。高嶺の花ともされている「松茸」を地元の人達は、私達が一寸海へ「ハマグリ」でもとりに行くように、山へ松茸狩りに行きます。

東北地方では、千葉県は首都圏の一部として「成田」「銚子」は有名です。最近「鮭」の逆上する川として栗山川が広く知られるようになりました。どこへ行っても「千葉県の光町出身」と言っただけで、話相手と共通の認識を持てるような、そのような町にすることこそ、どんなに素晴らしいことでしょう。私は、そのようになる「光町」の将来に期待しています。年齢を経るにしたがって夢や希望が薄れて行くかも知れませんが、少なくとも物事の始めには、憧れや、ガッツがあったわけですから、初心の有望を忘れることのないようにしたいと思います。

本日は晴れて成人式を迎え、まさに人生のスタートになる訳ですから、今まで抱いて来た「大人への夢」を思い出すと共に、新たな気持ちで出発したいと思えます。私は、長年の希望でありました世界中を、自分自身の足と目で確かめるという計画を今年実行に移す予定で、今、着々と準備を進めております。

皆さんもお体に気をつけて、健やかにすごしましょう。

二十歳になって 思うこと



畔蒜 弘美

制服をついてこの間まで着ていたと思ったら、いつの間にか二十歳という人生の一区切りに達してしまいました。二十歳の誕生日という感が強く胸に迫ってくるのは、儀式というものを重んじる日本人の(私の?)性質からでしょうか。

今までは暖かい親の翼、学校という集団の中で守られて、ぬくぬくと育ってまいりました。

しかし、二十歳を迎えたその日から法的にも社会的にも大きな責任を背負って行かなければならなくなるのです。まだまだ精神的にも子供で、親の脛をかじって学校に行かせて貰っている私には、この荷は重過ぎていろいろに思われます。だからといっていつまでも甘えてばかりもいられません。

世間の方々からは「二十歳なんだから」という目で見られますし、今年の春には社会に出て

いかなければなりません。それなのに、社会がどのような仕組みで動いているか、どれほど厳しいものか全く知りません。その中でどれほど自分が成長しているかどうか全く見当もつきませんし、社会人としてどうなるかわかりません。全くこれからのことは自分しだいだと思えます。

私が今一番思っていることは、人として恥ずかしい生きかたをしたいということです。

周りに何をいわれようとマイペースで、広い心と長い目をもって、自分自身を常に見つめつつ、少しずつでも大人に近づき、自然状態で「人」に成りたいと思います。

